農林水産省

家畜の伝染病の侵入防止への協力のお願い



今、世界ではアフリカ豚熱（ぶたねつ）と口蹄疫（こうていえき）という家畜の伝染病のまん延が大きな問題となっています。
これらは、肉製品や衣服、靴などを介して感染拡大します。
これらが日本に侵入すれば、畜産物の安定供給に深刻な悪影響を与えるおそれがあります。
国内への侵入を防ぐため、皆様の協力が必要です。

01 アフリカ豚熱、口蹄疫とは

アフリカ豚熱（ぶたねつ）（ASF）



特性
致死率はほぼ100%（甚急型、急性型の場合）
ウイルスは長期間にわたって環境中に生存（冷凍なら1,000日以上も）
- pH4～11でも、血液や糞便中でも、豚肉や加工品（塩漬ハム等）の中でも生存できる

予防・治療
有効な治療法や予防法はない、ワクチンはない

損害
中華人民共和国で死亡・殺処分により飼養頭数が4割減り、豚肉価格が2倍以上に（2019年の事例）

口蹄疫（こうていえき）（FMD）



特性
口や蹄にできた水疱が痛くてエサを食べなくなり、産業動物としての価値が著しく低下
ウイルスの感染力が極めて強い
- 空気感染する（風に乗って60km以上離れた農場に移った例も）
- 豚1頭が1日に排出するウイルス量は牛を最大1,000万頭感染させる量に相当

予防・治療
有効な治療法はない、ワクチンはあるが感染自体は防げない

損害
過去に国内で30万頭の牛・豚を殺処分し、2,350億円の被害
（2010年の発生に関する宮崎県の試算、関連産業含む）

※ いずれの病気も人への感染の心配はない[注]

注：海外では口蹄疫ウイルスに極めて濃厚に接して感染した事例がごくまれに報告されるが、通常の生活の中で人に感染することはない。
万が一感染した場合は軽い発熱や口内炎になる程度で速やかに回復し、死亡例はない。

02 アジアでの発生状況

- アフリカ豚熱は、2018年に中国に侵入後、**アジア各国に拡大**。
- 口蹄疫は、**多くの国で継続的に発生**。
- いずれの病気も発生していないのは**日本などごく限られた国・地域のみ**※。

※ 日本では過去に口蹄疫が発生したことがあるが、その後清浄化している。



2025年11月1日時点
出典：WOAH、各国のウェブサイト等
注１：本資料における「発生」はWOAHに報告されたもの
注２：初発生年はWOAHに発生が報告された年
注３：口蹄疫発生国・地域は2022年以降で、括弧内は発生数

アフリカ豚熱の初発生年

国・地域名	初発生年
中国	2018年
香港、モンゴル、北朝鮮、韓国、ベトナム ラオス、カンボジア、フィリピン、ミャンマー インドネシア、東ティモール	2019年
インド	2020年
マレーシア、タイ、ブータン	2021年
ネパール	2022年
シンガポール、バングラデシュ	2023年
スリランカ	2024年
台湾	2025年

口蹄疫発生国・地域

国・地域名	発生年
中国(1)、インド(103)、インドネシア(不明) カンボジア(24)、スリランカ(67)、タイ(108) ネパール(66)、パキスタン(不明)、ブータン(3) ベトナム(17)、マレーシア(28)、モンゴル(5)	2022年
中国(4)、インド(49)、インドネシア(不明) カンボジア(16)、スリランカ(1)、タイ(15) ネパール(34)、パキスタン(不明) ベトナム(25)、マレーシア(8)、韓国(11)	2023年
中国(3)、インドネシア(不明)、タイ(2) ネパール(36)、パキスタン(不明) ベトナム(44)、マレーシア(15)	2024年

注：検査体制や、まん延により報告が十分でない場合やワクチンにより発生が見えにくく汚染状況と発生数が一致していない場合がある。

03 侵入を防ぐためにできること

1 海外から肉の入った食品を持ち込まない

- 感染した肉を**動物が食べる**と感染
- 不法持込された肉製品から**生きたアフリカ豚熱ウイルス**を発見



2 野外に肉の入った食品を捨てない

- ハイキングのお弁当やバーベキューの**食べ残し、ごみ**からも感染
- アフリカ豚熱に感染した肉の入っていた**トレーをイノシシが舐めた**だけで感染
- 海外では**野生イノシシでアフリカ豚熱がまん延**し、根絶が困難に



3 帰国後１週間は動物に近づかない

- **服や靴についたウイルス**を介しても感染

